第 26 回全国大会
日本中世英語英文学会

2010 年 12 月 4 日（土）・5 日（日）

大阪学院大学

〒564-8511 大阪府吹田市 岸部南 2 丁目 36 番 1 号　TEL（代表）06-6381-8434 （藤井香子研究室: 内線 5338）

第 1 日　12 月 4 日（土）14:00-16:30

シンポジウム I（2 号館　B1－02 教室）

「アングロ・サクソン イングランドの「文法」と「翻訳」―ラテン語から自国語へ―」

司会・総論　山内一芳（青山学院大学）

初期アングロ・サクソン イングランドにおける「文法」教育
―Tatwine, Boniface, Bede を中心に―　唐澤一友（駒沢大学）

ランベス詩篇の訳読注解とパリ詩篇の散文訳
―ラテン語の詩篇から自国語の詩篇へ―　山内一芳（青山学院大学）

古英語版 *Boethius* に対する Ælfric の文法的改変について　佐藤桐子（熊本学園大学）

Ælfric の *Grammar* を読む　市川　誠（青山学院大学）

研究発表 I（2 号館　B1－01 教室）

1. Rediscovering *The Trentals of St Gregory*: Contemporary Reception, *The Awntyrs off Arthure*, and a New Transcription　Martin Connolly（鶴見大学）

2. Pepys 版『キリストの受難の黙想』の校訂に向けて　田口まゆみ（大阪産業大学）、家入葉子（京都大学）

研究発表 II（2 号館　B1－04 教室）

3. 中世イングランドにおける女性のディヴォーショナル・リテラシー　菅野磨美（慶應義塾大学大学院）

4. 中世後期のロマンスにおける男女の友情：ナラティブを支える協力関係
―*Floris and Blanchefleur* を中心に　小川真理（慶應義塾大学非常勤講師）

5. *The Parliament of Fowls* のテクスト研究
―出版史からみる Rastell 版（1525 年）の意義―　川端　新（福岡女子大学大学院）

第 2 日　12 月 5 日（日）10:00-12:30

シンポジウム II（2 号館　B1－02 教室）

「英国年代記と国家意識―15、16 世紀を中心に―」　司会・総論　高木眞佐子(杏林大学)

ジョン・ベレンデンによる『スコットランド年代記』と 16 世紀の国家意識
張替涼子（杏林大学非常勤講師）

散文『ブルート』とマロリーの『アーサー王の死』(1485)
—党派抗争とアーサー王の正統な継承者— 高木眞佐子（杏林大学）
ロンドン市民社会における国家意識の誕生
—リチャード・ロビンソン『アーサー王事績肯定論』(1582)を中心に— 井出　新（慶應義塾大学）
Malory から Dee へ—Hardyng の年代記の影響— 髙宮利行(慶應義塾大学名誉教授)

研究発表 III（2 号館　B1－01 教室）

6. 古英語行間訳福音書マタイ伝 26・27 章について
—文献学的考察と古英語による『受難』テクストの視点から— 小竹　直（日本赤十字看護大学非常勤講師）

7. OE *weald hu* は文法化と呼べるのか 小倉美知子（千葉大学）

8. 動詞 *sleep* の形態変化に関する史的考察—散文作品を中心に— 米田繭子（京都大学大学院）

研究発表 IV（2 号館　B1－04 教室）

9. The *Poema Morale*, MS M の言語特徴 堀田隆一（中央大学）

10. 中英語における反復表現の修辞的効果 片見彰夫（埼玉学園大学）

＊受付は 12 月 4 日（土）11:30-16:30、5 日（日）9:30-11:30、2 号館地下 1 階ホールにて行います。

日本中世英語英文学会　（会長　中尾　佳行）
事務局　〒514-8507　津市栗真町屋町 1577
三重大学教育学部　西村秀夫研究室内
電話　059-231-9315
[大会準備委員] 鎌田幸雄（委員長） 網代 敦（副委員長） 伊藤 盡　澤田真由美　宅間雅哉　竹中肇子　村長祥子